

# 中欧ヨーロッパ研修

城西国際大学国際人文学部国際交流学科

行木千賀

## 1. はじめに

私が今回の中欧ヨーロッパ研修にした理由は様々あるが、大きな理由として3つある。

一つは、国境について知りたい・どんな場所なのか現地に行ってみたいと思ったからだ。実際に国境に行ったことがなく飛行機のみでしか海外に行ったことがなかったため車やバスを使い国境を越え、国境までのハイキングも今回の研修の大きな目玉であったからだ。

二つ目は、言語について。同じ大陸なのに国によって使われている言語が全く違うということに興味がありどのような違いがあるのかを知りたいと思った。訪問する国がそれぞれ違う言語だったため違いを肌で感じたいと思った。

また、日本語を学んでいる学生たちはどのように授業を受けているのか、なぜ日本語を学んでいるのか・ヨーロッパの日本語教育を見たいからだ。私は副専攻で日本語教授法を学んでおり日本語教育に興味があった。なぜ多く言語の中から日本語を選び大学で学んでいるのか、日本語学科を卒業してどのような進路なのかも気になったからだ。日本が好きだったら文化や旅行で済む人々も多いはずだ。それでも言語が学びたいと思えば言語を学ぶことということ自体に日本人との言語についての感覚、考え方の違いがあるのではないかとも思った。私が今まで出会ったアジアの人々は日本に出稼ぎや就職をしてお金を稼ぎたいという方たちが多かった。なので、ヨーロッパの人々の日本語を学ぶ目的がアジアの人々との違いを知りたいという興味もあったからだ。また、国際交流基金の訪問にも興味があったためぜひ参加してみたいと思ったからだ。

三つ目は、中欧地域に興味があったからだ。また、今までチェコ研修がなかった為行くチャンスだと思ったからである。一年次にチェコ語を履修し、チェコへの興味があった。留学生だったチェコ人の友達の影響もあり「チェコに行ってみよう！」と思っていたのだ。私は以前にポーランド研修に参加した経験があり、元々中欧ヨーロッパに興味があった。しかし、一か国だけではなくもっと様々な中欧ヨーロッパに行ってみよう、言語を学んでいたチェコや友達の故郷のスロヴァキアにも行ってみたいと思った。元々はチェコスロヴァキア共和国という一つの国だった。その二か国の関係性にも興味があった。そして、中欧地域の国を5カ国行ったのでその国々の比較もしたかったからだ。

また、異文化についてもゼミで学んでいたので日本と中欧の文化の違いを体験したいという目的もあった。今回、城西大学と城西国際大学の合同の研修が初めてだということとで他大学、他学部の学生との交流も魅力を感じた。これらの理由で様々な事を学び、

経験するために今回の研修に参加しようと思った。

## 2. 国境について

私たち日本人は国境という言葉聞いてあまり親近感がないと思う。なぜなら、日本は島国で飛行機や船などの交通機関を使わなければ外国に行けないからだ。徒歩や車で国境を越えるというのは多くの日本人が経験したことないことだと思う。しかし、中国やモンゴルのように他の国とつながっているのにあるところで国が分かれています。言語も民族も違うというのは私たち日本人にとってあまり感じた事のない感覚だと思う。それがヨーロッパは多くの大きい大陸の中で様々な国が存在してその中で民族や言語、通貨なども異なっている。いったいどのような違いがあるのか、国境とはパスポートを出して印鑑を押してもらいわたるものなのか。実際に行くまでこのような想像しか出来なかった。なぜなら、行ったことがない世界だからだ。

今回の研修で大目玉だった「車で国境を越える」、「三カ国の国境ハイキング」はすごく印象的だった。オーストリアからチェコに向かう際、国境に近づくほど何もなく田舎道を永遠に走り続けていた。正直どこが国境だったのか車に乗っている誰もがあいまいだった。運転手さんが教えてくれた時には国境を越えていて正直「国境を越えた！」という瞬間は全く感じられなかったです。しかし、「これが国境なんだ」というものがないという驚きが今回の研修での大きな発見、学びだった。気づいたら越えていたのが違和感でしかなかった。

私が今までに想像していた国境はラインが引かれてあり、高速道路の料金所みたいな場所でパスポートを見せて入国するという勝手なイメージがあった。しかし、そのようなものはなく川を越えるというような道もなく何を基準に国境が決められたのか謎でした。三カ国の国境ハイキングの時も何も無い道がスロヴァキアから急にハンガリーになり、何も無い畑道は右がスロヴァキアで左がハンガリーで二か国を同時に歩いているという実感が驚くほど何もなかった。



現地の学生たちからしたら国境を徒歩や車で越えるということは特別なことではなく普通なことである。なので、あまり国境についてもあまり感動していない様子が私とは

でも驚いた。珍しいところに来たぐらいの感覚でしかなかったみたいだ。現地の学生と一緒にいったことによって感覚の違いを肌で体験することもできいい体験だった。もし、彼らと一緒にいかなければ日本人とスロヴァキア人の国境についての感動や関心が違うことに気が付くことが出来なかったかもしれない。

しかし、ひと昔前の時代ではこのようなたいしたことない国境が大きく、越えたら生活が変わるぐらい大きな国境に感じていたことを同時に感じた。ほかの国境でも旅行などと言って夜逃げした人々もこのような何もない国境を懸命に越えるために作戦を立てたりしていた背景があると考えたら私たちから見たら何もない国境にも様々な人たちにとっては思い出深く歴史的な国境でもあることが分かった。

### 3. 言語について

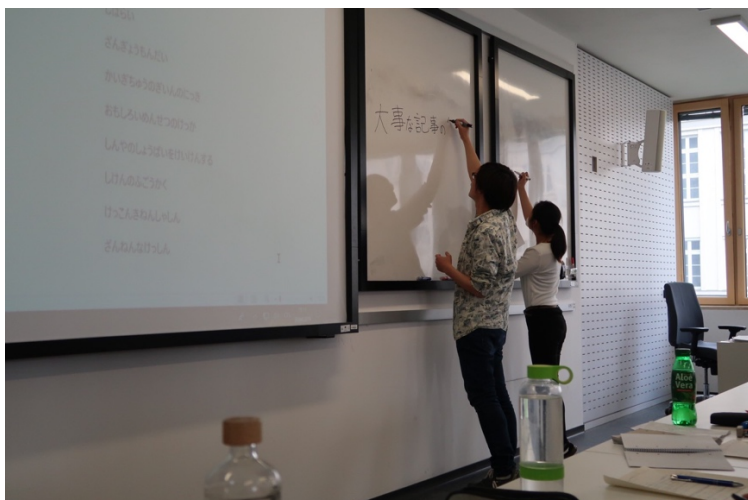
研修で訪問したオーストリア、チェコ、スロヴァキア、ハンガリー四カ国すべてが近隣にあるのに全く違う言語を使っていた。オーストリアではドイツ語、他三カ国は自国語を使用していた。まず、オーストリアはドイツ語を話していますが挨拶がドイツと違う。ドイツでは「グーテン・ターク」というがオーストリアでは通じるがあまり使わないらしく、主に使われる挨拶が「グリュース・ゴット」と言うそうだ。同じドイツ語でもなぜ違いがあるのか不思議に思った。帰国してから気になり調べてみると宗教の違いが関係していることが分かった。オーストリアでは、カトリックを信じる人々が多く挨拶にゴット（神様）を取り入れたのではないかということが分かった。同じ言語でも民族や宗教が違くと若干ではあるが異なる部分があるということが分かった。

二か国目、三か国目に訪れたチェコ、スロヴァキアではそれぞれの自国語を持っているが、チェコ語、スロヴァキア語はそっくりな言葉も多くあるがそうでない言葉も多くあるということが分かった。元々チェコスロヴァキア共和国だったため言葉が似ている。もちろん挨拶は「ドブリーデン」で通じた。チェコ語を聞いてなんとなく理解ができると多くのスロヴァキア人の学生が言っていた。私のイメージしていたチェコ語とスロヴァキア語の違いは多少の発音の違いでほぼ変わらないと思っていた。しかし、単語によって全く違う発音のものもあり元々一緒だった国でも単語などが全然違っていたことに驚いた。私は改めて言語は現地に行って実際に聞きその違いを現地の学生に質問するということがとてもいい体験にもなりその発見を見つけることが出来た。チェコ語を学んでいた成果があった気がした。また、スロヴァキアの隣にあるハンガリーはハンガリー語を使っている。

私は同じ大陸なら文化もほとんど変わらないだろうと勝手に思っていたが、言葉も文化でそれぞれがそれぞれの言語を持ち表現などの違いなどもある事を言語という形を通して文化の違いを感じられた。

また、中欧ヨーロッパで日本語を学んでいる学生たちはなぜ日本語を学んでいるのか興味があった。私は日本語教授法を副専攻で学んでいるということもあり知りたかった。実際に日本語の授業に三コマ参加し多くの学生と触れ合うことができた。また、漢字テストも受

け皆書き順や漢字の形などがバラバラで漢字の書くことの難しさがわかった。



この写真はマサリク大学の漢字の授業で、漢字テストの答え合わせを私たち日本人がホワイトボードに書き答え合わせをした。問題の文章は中々日本では使わなそうな日本語などもあり新鮮で面白かった。

日本語を学んでいる多くの学生はアニメや漫画の影響が多いと思う。しかし、中には「日本語の発音が素敵、可愛い」や「趣味で言語を学んでいる」という意見もあり大変驚いた。私の中の考えだと発音が可愛いと思えば言語を学び始めた日本人の友達はあまりいないと感じた。また、趣味が様々な言語を学ぶことという発想も自分の中ではなく大変驚いた。日本人はあまり他言語を学ぼうとする人が他の国に比べ少ない気がするからだ。私たち日本人は他言語に触れる機会も少ないといことも原因の一つでは無いかと考えた。日本語は日本でしか使えないと思ってしまいが、彼らは日本語を学びたいから学ぶという思いがある学生が多く感じた。文化の一つとして言語を学ぶことは素敵なことだと今回の研修で様々な学生と触れ合い感じた。また、私も多くの人々に日本語の素晴らしさや日本文化について教えられる存在になれる様に勉学に励みたいと改めて思った。

#### 4. 中欧地域について

中欧地域と聞いて入学当初は全くわからなかった。しかし、4カ国行き様々な面でわかった事がいくつかある。

一つは、音楽の街が多いという事だ。世界の音楽の街といえばウィーン。確かにウィーンでは車でチェロの音で人々の心惹かれていたり音楽家の衣装を身にまとったおじさま方が多くいたりもした。だが、ウィーンだけでなくブルノも音楽の街だと思った。なぜなら、朝目を覚まし、窓を開けると爽やかなトランペットの美しい響きが私たちの部屋まで聞こえていた。また、街でも金管楽器のアンサンブルをしている光景も多く目にした。毎日が音楽で溢れていた。

二つ目は、古い街並みだ。近代化されている建物もあるがほとんどが昔の建物だ。比べて日本はほとんど近代の建物で古い建物は京都や奈良ぐらいしかあまりないイメージ

が強い。なので、実際に行き衝撃を受けた。建物はそのままだが内装は近代的になっておしゃれなところが多かった。昔ながらの建物の美しさを残しながら内装は近代的になっていて私はとてもいい文化だと思った。また、プラハの橋を眺めた際に「昔はこうだったのかな」と建物や橋とともに昔の人々を想像していた。そのぐらい当時の美しさが残っていたのだ。



## 5. 最後に

私はこの研修で二週間という短い期間ではあったが、中欧の国を巡り様々な体験、出会いが出来たことは一生の思い出になった。この研修を機に改めて中欧について学びたいとも思った。1カ国で長くて五日間ほどの滞在だったので、今度また中欧地域に行く際にはもう少し長く滞在してみたいという風に思った。

そして今回、JIU と JU の学部も学年もバラバラなメンバーとの交流の中で専門が違うので様々な視点から様々なことを考えられ、一緒に中欧地域について学び感じる事ができ私にとってとても良い経験になった。もっと JU の人たちとも関わりたい、話してみたいという思いも生まれた。中々他大学との関わりが普段なためこの研修プログラムだけでなくもっと関われる機会が欲しいと思った。また、訪れた国々で交流し現地の友達ができ滞在している際はチェコ、ハンガリーでは観光やご飯を食べに行きとても楽しく過ごせた。普通の研修では友達ができても中々スケジュールの関係で食事なども厳しかったが今回の研修では現地の学生との交流も重視されていたので現地の学生が普段行っている場所なども体験できて嬉しかった。なので、もっと興味がわき中欧について学びたいという意欲が高まったと思う。来年度は、ハンガリー文化についての授業やチェコ語なども履修したいと考えている。

改めてこの研修で学びたいことや興味が増え日本語の授業にも参加できとても貴重な



体験が多くできた研修でした。参加できとても光栄でした。今度は自分で中欧ヨーロッパを巡りたいと思う。